

8月3日（日）主日礼拝レジュメ

「賜物をどのように用いるか」 ペテロの手紙第一4章11節

11節は、賜物を具体的にどのように用いるのかについて語っている。

（ ）・・・聖書の教えや説教、伝道、教え、預言、（集った会衆の中での歌と賛美と証しのことばを分かち合う）

語ることは、教会の牧師、伝道師のような教職だけに限定されない。

語られる内容は「神のことばにふさわしく語り」・・・神のことばとは、神が人に語られたことば。神が人に語ることばとして、それにふさわしく語ること。・・・神が人に語ることばについて、正確に語るということ。賜物を用いるということは、自分にできるかできないかということではない。そこには聖霊様の助けが必ずある。

（ ）・・・教会における他者の利益のための助けや励ます奉仕、例えば貧しい人や病気の人へのケア、癒しなど。

「神が備えてくださる力によって」・・・神が私たちに奉仕の賜物を用いようとする時に必要なものを備えてくださり、それをさらに豊かなものとしてくださる。

奉仕を自分の力で行う危険。・・・実を結ぶことがなかつたり、時には燃え尽きてしまうことさえある。プライドや自己満足。その奉仕は本当に神が自分に与えられた奉仕なのか。主の召しの確認が必要。

主の与える助け・・・物資的な助けであつたり、肉体的な助け手であつたり、情緒的な面での助け、そして霊的な面での助け。

「すべてにおいて、イエスキリストを通して神があがめられるためです。」人が崇められないように、すべてイエスキリストを通して、すなわちイエスキリストの御名によって、イエスキリストの御名のためにすべてのことを行う。

「この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン」＝頌栄神にすべての栄光と力をお返しし、まさに自分たちを通して、すべてのことにおいてイエスキリストを通して神があがめられ、神に栄光と力が帰せられ、自分たちを通して神がほめたたえられることを喜ぶ。

最後の頌栄こそ、私たちの仕え合う目的であり、意味であり、ここを目指して、すなわちすべてにおいて、イエスキリストを通して神があがめられるため、この方に栄光と力が世々限りなくありますようにと祈り願いながら、そして主をただほめたたえながら、私たちは主に仕え、主のために生きているということ。

私たちに与えられているのは恵みの賜物。

イエスキリストを深くおぼえるなら、神があがめられるようにされるはず。それは、神の御子が人となって世に下って来られた謙遜、その恵み、深い愛、十字架を通してのキリストのみわざ＝罪からの救い、命までも捨てられたキリストの愛、イエスキリストを通して、すべてのことにおいて私たちが絶えずキリストを仰ぎ見るなら、キリストの十字架を仰ぎ見ることを決して忘れなければ、賜物を持って互いに仕え合う時に、そこに神があがめられ、ともにこの方に栄光と力が世々限りなくありますようにと、主をたたえるようにされるはず。

ただこの取るに足りない小さな愚かな者を通してただ神があがめられますように。